# 太田市自分ごと化会議
# 2022 からの提案書

太田市自分ごと化会議 2022

令和5年3月

# ＜　目　次　＞

～ はじめに ～ - 2 -

Ⅰ 「太田市自分ごと化会議 2022」実施概要 - 3 -

Ⅱ 太田市の防災の課題と課題を解決する方法 - 5 -

テーマ1：情報 - 6 -

テーマ2：防災・減災への行動 - 9 -

テーマ3：要配慮者への対応 - 12 -

Ⅲ 「太田市民のための防災マニュアル」を市民の手でもっと使いやすくしよう！ - 16 -

1 「太田市民のための防災マニュアル」をもっと使いやすくしよう！ - 18 -

2 「太田市民のための防災マニュアル」を活用しよう！ - 20 -

3 防災自分ごと化シートを作成しよう！ - 22 -

Ⅳ 自分ごと化会議に参加して、変化したこと - 27 -

1 自分ごと化会議に参加して、変わったこと（アンケート結果から抜粋） - 27 -

2 会議全体を通じた感想やコメント（アンケート結果から抜粋） - 27 -

3 今日からの防災自分ごと化宣言 - 28 -

～おわりに～ - 29 -

## ～ はじめに ～

昨年の 11 月から始まった太田市自分ごと化会議では、今年の3月までの間に全4回の会議を開催し議論を重ねてきました。本会議には、抽出された市民をはじめ、職業・年代・国籍や経歴が異なる様々なメンバーが参加し、それぞれの経験をもとに意見を交わしながら交流を深め、活発な議論を行うことができました。

今年は「防災」をテーマに議論を重ねました。今までに、大きな災害を経験したことがない太田市に住んでいる私たちにとって、「防災」というのはどこか他人事のようで、危機が迫った時のことや発生した時のこと、また災害への備えについて真剣に考える機会はあまりありませんでした。しかし、会議を通じて防災についての課題や、解決策、自分たちにできることなどについて話し合いをする中で徐々に防災を自分ごと化できるようになっていきました。

また、本会議では太田市役所における「防災」の所管部署である危機管理室職員も、積極的に議論に参加し、私たち委員と一緒に防災についての課題や解決に向けた取組について向き合いました。

本会議を踏まえて「課題を解決する方法」や「目指す姿に近付くための具体的な方策」として取りまとめた「改善提案」を私たちも出来ることを実行することにより、今後、太田市を今よりも住みやすい元気なまちにしていきたいと考えます。

全国各地で自然災害が頻発化・激甚化し、甚大な被害が発生しています。このような中、防災・減災を「自分ごと化」し、自助・共助・公助による地域防災力を高める必要があります。この提案は、住民（太田市民）から行政（太田市役所）への提案という意味合いだけではありません。この提案が行政だけでなく、住民のみなさんにも届くことを願っています。

全4回の議論を重ねる中で得られた市民の生活者の視点で感じている不安や課題、様々な気づきがこの提案書には、載せられています。

この提案書を太田市が有効に活用していただくことを強く望むとともに、こうした、まちの抱える問題を「自分ごと」として考える取組が、今後も続いていくことを期待します。

令和５年３月

太田市自分ごと化会議 2022　委員一同

# Ⅰ 「太田市自分ごと化会議 2022」実施概要

〇太田市自分ごと化会議2022委員

| | |
|---|---|
| 無作為に抽出し会議委員の案内を送付した数 | 600 件 |
| 無作為抽出により応募した委員（応募率） | 11人（1.8%） |
| 無作為抽出により参加した委員の数 | 10 人 |
| 参加した国外出身の委員の数 | 2人 |
| 参加した太田市自分ごと化会議2021の委員の数 | 4人 |
| 参加した委員の数（合計） | 16 人 |

〇太田市自分ごと化会議2022委員一覧

| No. | 区分 | 氏名 |
|---|---|---|
| 1 | 無作為抽出 | 青木　千代子 |
| 2 | 無作為抽出 | 阿久田　司 |
| 3 | 無作為抽出 | 遠藤　弘之 |
| 4 | 無作為抽出 | 梶原　拓也 |
| 5 | 無作為抽出 | 川田　碧 |
| 6 | 無作為抽出 | 関沼　三郎 |
| 7 | 無作為抽出 | 髙畑　鉄男 |
| 8 | 国外出身の住民 | Silvia Rosane Colodeti Yokota |
| 9 | 国外出身の住民 | 坂本　裕美 |
| 10 | 2021委員 | 西村　美弥子 |
| 11 | 2021委員 | 萩原　佳代 |
| 12 | 2021委員 | 横山　亮太 |

※掲載に同意いただいた委員の氏名を掲載。

〇太田市危機管理室　※テーマである「防災」の担当部局として会議に参加

・茂木　房士
・河野　憲嗣
・金子　将紀
・青山　航大

〇一般社団法人構想日本
＜コーディネーター（議論の整理役）＞
・高澤　良英　（千葉県市原市　企画部長）
＜ナビゲーター＞
・植竹香織（ポリシーナッジデザイン合同会社　代表）
＜補助スタッフ＞
・田部井猛（プロジェクトリーダー）
・清水真穂（特別研究員）

〇テーマ
「防災」

〇各回の概要
開催日：
・第1回会議：2022年11月19日（土）
・自分ごと化会議の概要説明（太田市企画政策課）
・テーマに関する太田市の概要や現状の説明（太田市危機管理室）
・委員の自己紹介
・防災に関する疑問点等の整理
・第2回会議に向けて防災マップと避難所マップの見方の説明（太田市危機管理室）

・第2回会議：2022年12月11日（日）
・第1回会議の振り返り
・災害時のリスクの洗い出し（災害時の心配ごとと、その要因）
・防災に関する課題整理
・「改善提案シート」の記入など

・第3回会議：2023年1月21日（土）
・第2回会議の振り返り
・防災に関する課題整理（課題・解決策）
・ナビゲーターからの情報提供「行動科学・ナッジを活用した防災行動促進のヒント」
・「太田市民のための防災マニュアル」の点検
・「改善提案シート」の記入など

・第4回会議：2023年3月18日（土）
・第3回会議の振り返り
・提案書案を基に議論
・「意見提出シートの記入」など

## Ⅱ　太田市の防災の課題と課題を解決する方法

私たちは「防災」をテーマに、日頃の備えといざという時の対応を家庭や地域でどのようにしたらよいかなど、普段の生活では身近に感じることが難しい「防災」を自分ごと化することに挑戦しました。

第2回会議での災害時のリスクの洗い出し、第2回・第3回会議での防災に関する課題と解決策についての議論、また改善提案シートの内容から見えてきたことを、以下の3つのテーマと9つの課題に整理し、「私たち市民」、「地域」、「行政」が課題の解決に向けて、それぞれ取り組むべき方策を取りまとめました。

### テーマ1：情報

| | |
|---|---|
| 課題（1） | 情報の収集・発信 |
| 課題（2） | 防災意識の醸成 |
| 課題（3） | コミュニティでの取組 |

### テーマ2：防災・減災への行動

| | |
|---|---|
| 課題（1） | 避難行動 |
| 課題（2） | ペットに関する避難 |
| 課題（3） | 避難所生活 |

### テーマ3：要配慮者への対応

| | |
|---|---|
| 課題（1） | 子どもへの対応 |
| 課題（2） | 障がい者や高齢者への対応 |
| 課題（3） | 外国人への対応 |

## テーマ1：情報

| 課題（1） | 情報の収集・発信 |
|---|---|
| 発災前（平常時） | ➢ どのような情報が、どこにあるのか市民に伝わっていない（外国人向けの避難マニュアル等について、外国人は知らなかった）。<br>➢ 防災マップ、ハザードマップが分かりにくい。防災マップでは浸水時に避難に適している高い建物の場所が分からない。<br>➢ 防災マニュアルは、情報量も多く、内容も子どもや高齢者には難しい。<br>➢ 市の防災メールの登録者数が少ない。 |
| 避難（危機切迫） | ➢ 避難所までの経路、避難所の場所が分からない（車で？歩きで？どちらが安全？）。<br>➢ 避難のタイミングが分からない。<br>➢ 河川水位の状況が知りたいが入手方法がわからない。<br>➢ 防災無線が聞こえない。ラジオも持っていない。 |
| 発災後（危機発生） | ➢ 安否確認の方法が分からない。 |

| 課題を解決する方法 | |
|---|---|
| **私たち市民** | ➢ 自分自身で、防災への興味関心を持って、自ら情報を探す。<br>➢ 防災メールの登録をする。家族や友人にも防災メールの登録を勧める。<br>➢ 家族で具体的に災害発生した際の対応について話し合う。例えば、平日に発生したとき、夜に発生したときの対応方法や連絡方法についての話し合いをする。<br>➢ 防災グッズの準備や家具の転倒防止対策を行う。<br>➢ 地震情報や災害情報をテレビやスマホ、ラジオで入手出来るようにする。 |
| **地域** | ➢ 自治会で防災について話し合いをする。 |
| **行政** | ➢ 情報を「伝える」から「伝わる」へ意識・行動を変えるように市民への周知方法を工夫する。<br>➢ 大型ショッピングセンターなど市民が集まる場所を活用したり、外国人市民が集まる会議などで機会を捉えて防災について意識啓発を図る。<br>➢ 小学生にも分かる防災マップを作成する。<br>➢ 防災マニュアルは情報量が多いので、QR コードを掲載し、市のホームページにリンクするなど、伝わりやすい工夫をする。<br>➢ 防災マニュアルをチャート形式にする、興味を引くカラーを取り入れる、ポケットサイズで作成するなど、幅広い年齢層に分かりやすく・使いやすくする。<br>➢ 発災状況など避難に関する事前情報を住人に対し防災無線で案内を行う。 |

| 課題（2） | 防災意識の醸成 |
|---|---|
| 発災前（平常時） | ➢ 市民の危機意識が希薄（安全安心な太田市という思い込み）。<br>➢ 世代間による防災に対する意識の違いがある。<br>➢ 自分は大丈夫だと思い、防災の対策をしない、災害発生時に避難をしない。 |

| 課題を解決する方法 | |
|---|---|
| **私たち市民** | ➢ 防災対策の大切さを地域の人や家族に伝える。<br>➢ 普段から家族で防災について話し合いをしておく。<br>➢ 普通救命講習を受講し、いざという時に実践できるようにする。<br>➢ まず、自分、家族の安全を優先して安全を確保し、二次災害に備え安全を確保できるように準備をしておく。<br>➢ 自宅周辺のブロックや生け垣の点検を行う。<br>➢ 家屋の補強など、自宅の防災能力を強化しておく。 |
| **地域** | ➢ 所属する団体やコミュニティで防災について、危機感・リアルさを持って考える。<br>➢ 地域での防災訓練を実施し、助け合いを行える地域づくりを行う。<br>➢ クリーン作戦の時など、地域全体で危険箇所の点検をする。 |
| **行政** | ➢ 防災について考える場、対話の場をつくる。<br>➢ 災害を体験できる VR などを使ったイベントを実施し、住民に災害が起きた時の状況を体験してもらい災害時の状況を考える機会をつくる。<br>➢ 行政の防災に関する情報を分かりやすく学校などでも災害の事をしっかり伝える。<br>➢ 子ども（小学生）の防災教育を実施する。（小学生は大人より年齢の近い中学生、高校生の指示に従うことが良いのではないか。）<br>➢ 防災訓練や防災に関しての授業の際に、乾パンやライトなど簡単な防災グッズを詰め合わせにして子どもに渡す。<br>➢ 耐震のためのブロック塀の改修、家を補強するための補助制度や担当課の周知を図る。生垣への対応については、今後新たな制度の創出を図られたい。<br>➢ BCP（事業継続計画）を策定し、従業員の生活を守る、災害時の対応について企業に働きかける。 |

| 課題（3） | コミュニティでの取組 |
| --- | --- |
| 発災前（平常時） | ➢ 隣近所の住民のことをよく知らない。<br>➢ 地域コミュニティのことを良く知らない。 |

| 課題を解決する方法 | |
| --- | --- |
| **私たち市民** | ➢ 日頃から挨拶などのコミュニケーションをとり、隣組の人々との情報交換、声掛けをする。地域のイベント等に参加して、知り合いを増やす。 |
| **地域** | ➢ 隣組の人々と情報交換、声掛けをする。イベント等に参加し、顔の見える関係をつくる。<br>➢ 隣近所の住民が分からないので、災害に備えるために隣組長に組の構成メンバーの情報を公開してもらう。<br>➢ イベントの実施や避難訓練を通じて、防災をテーマに地域で話し合う。<br>➢ 日頃から挨拶などのコミュニケーションを図る。<br>➢ 近所付き合いをする中などで、子ども（小学生）に中学生・高校生が災害時の避難を共にできる存在として教える。また、隣組や子ども会などを活用し、防災への意識を高く持ち、情報交換をする。 |
| **行政** | ➢ 地域ごとの避難訓練の場を提供する。 |

## テーマ2：防災・減災への行動

| 課題（1） | 避難行動 |
|---|---|
| 発災前（平常時） | ➢ 車で避難できる場所の情報が分からない。<br>➢ 風速など風に関する影響についてイメージできない。<br>➢ 自分で避難できるか分からない。<br>➢ 安心安全な避難道の確保ができるか。 |
| 避難（危機切迫） | ➢ 洪水時において尾島地区では避難所がないので、どこに避難したら良いのか分からない。<br>➢ 「通過可能」「通過不可」などの車での避難経路情報の入手方法が分からない。 |
| 発災後（危機発生） | ➢ 自動車での避難は可能か？（駐車スペースは避難所に十分にあるか？）<br>➢ 浸水被害があった場合の対策が分からない。 |

| 課題を解決する方法 | |
|---|---|
| **私たち市民** | ➢ 駐車スペースが十分かなど、車で避難できる場所を事前に確認しておく。<br>➢ 事前に地域の環境美化活動に参加して避難経路のシミュレーションをする。<br>➢ 風水害に対する情報を入手する。<br>➢ 災害が発生する恐れがあるときは、外に飛ばされるようなものは置かないようにしておく。<br>➢ 降雨が激しく、既に浸水し避難が困難なときは、自宅２階などに垂直避難する。 |
| **地域** | ➢ 地域活動を通して、万が一の時の話し合いを同じ隣組の人たちと共有する。<br>➢ 危険が迫っているときは、地域で声掛けし、避難を促す。<br>➢ 職場や学校で実践的な訓練ができると良い。<br>➢ 避難の際に子ども同士で助け合えるよう、近所付き合いなどで、子ども（小学生）に中学生・高校生の存在を教える。<br>➢ 駐車スペースが少ない避難所に避難する場合に、乗合などで避難できるように日頃から準備する。<br>➢ 台風の接近が予想される場合、町内巡回により、外に置かれている物を確認して、安全を呼び掛ける。<br>➢ 浸水防止対策などを協力して行う。 |
| **行政** | ➢ 大型ショッピングセンターの駐車場など、公開していない民間等の避難場所の情報を住民に公開する。<br>➢ 災害が発生する前に避難経路上の危険箇所は、補助金や予算組みに入れて改修（改善）できる計画を立て、住民に告知してほしい。<br>➢ 他地区への分散避難ができるように事前に準備をする。<br>➢ 適切な避難行動の周知を図る。 |

| 課題<br>（2） | ペットに関する避難 |
|---|---|
| 発災前<br>（平常時） | ➢ ペットの避難情報が分からない。 |
| 避難<br>（危機切迫） | ➢ 避難所に、ペットを連れて避難できるのか分からない。<br>➢ 鳥や爬虫類など特殊なペットを連れて避難所に行けるのか分からない。<br>➢ ペットの避難は公助に頼れないので、自助で考える必要がある。 |
| 発災後<br>（危機発生） | ➢ 避難所でペットも避難生活を送ることができるのか分からない。 |

| 課題を解決する方法 | |
|---|---|
| **私たち<br>市民** | ➢ 人の防災用品のみならず、餌やペットシート等のペット日用品の備蓄をするように準備をする。<br>➢ ペットの受け入れ先の場所を探しておく。 |
| **地域** | ➢ ペットショップやドッグカフェ等にペットの避難方法や避難生活に関する情報をポスターで貼るなどし、飼い主への情報提供や啓発活動を行う。<br>➢ ペットを飼っている方のコミュニティを作り、防災に関する情報交換や災害時に助け合える体制づくりを行う。 |
| **行政** | ➢ ペットに関する避難所情報の提供を行う。<br>➢ ペット可の避難所の整備を行う。 |

| 課題（3） | 避難所生活 |
|---|---|
| 発災前（平常時） | ➢ 避難所の安心安全の基準はどうなっているのか心配。<br>➢ 避難所の利用方法などが良く分からない。<br>➢ 避難所の詳細が分からない（収容人数、駐車場、防犯、プライバシー対策等）ので、対応がイメージできない。<br>➢ 防災用品を準備していない。何を用意したら良いか分からない。<br>➢ 実際に過ごす時間は自宅よりも勤務先や通学先が多い人もいる。自分の生活圏で災害が起きたらどうするのか考える必要がある。 |
| 避難（危機切迫） | ➢ 避難準備に何をしたらよいか分からない。<br>➢ 避難所が速やかに開設されるのか心配。<br>➢ 道路幅が狭く、古いブロック塀や生け垣があり、倒壊で通行できなくなる可能性があるので、災害時にその道で避難できるか心配。<br>➢ 避難所を利用しない在宅避難や近隣避難でも対応できる準備が整っているのか？<br>➢ 大規模な地震等が発生した場合、多数の避難者を受け入れ可能か心配。 |
| 発災後（危機発生） | ➢ 外出時に災害にあったとき、どのように行動したら良いか分からない。<br>➢ 隣近所のコミュニケーションが不足しているので、協力し合えるか心配。<br>➢ 避難所の男女間のプライバシーは問題ないのか。<br>➢ 避難所の備品の有無、コンプライアンス、ガバナンスはどうなのか。 |

| 課題を解決する方法 | |
|---|---|
| **私たち市民** | ➢ 自分自身の最低限必要な物の確認　防災グッズの準備をしておく。<br>➢ 災害時に生命や財産をどう守るか、あらかじめ家族で話し合っておく。<br>➢ 健康に留意しておく（運動、食事等）。 |
| **地域** | ➢ 日頃から近所付き合いをして、いざというときに声掛け出来るようにしておく。<br>➢ 地区の防災訓練を行って、備品庫内を参加者が整理して内容を把握する。<br>➢ 周辺企業、周辺住民との協力体制をつくり、物資の共有等ができるようにする。 |
| **行政** | ➢ 公共施設の災害対策を進める。<br>➢ 防災訓練の際など発災前に、避難所に用意してある防災用品や備蓄品を公開する。<br>➢ 避難所生活でどんなものが必要になるのか一覧にして住民に周知する。<br>➢ 逃げ遅れた人の救助体制を確立する。<br>➢ 避難できない人への物資提供方法の検討を行い、事前に住民に周知する。<br>➢ 災害対策基本法の改正への対応を進めて行く。<br>➢ 防災対策においてICTの活用のための整備を行い、発災時に住民が各機関の指示に従うことが出来るようにしておく。 |

## テーマ3：要配慮者への対応

| 課題<br>（1） | 子どもへの対応 |
|---|---|
| 発災前<br>（平常時） | ➢ 小さい子ども（赤ちゃんから未就学児）が嫌がられずに避難できる場所はどこなのか。<br>➢ 小さい子ども連れだと避難所に行きにくく感じてしまう。<br>➢ 引き渡し訓練は、訓練だから仕事を抜けて参加できるが、突然の発災時には仕事を抜けられないのではと心配である。 |
| 避難<br>（危機切迫） | ➢ 子どもが家に一人でいたときに被災した場合の避難方法や地域との連携ができるか心配である。<br>➢ 災害時の子どもへの連絡方法や、子どもが手助けを求める際にどう伝えるかが課題。<br>➢ 災害時に福祉避難所が設置されている場所が分かる目印があるとよい。 |
| 発災後<br>（危機発生） | ➢ 乳幼児がいる家族が安心して避難できる場所はあるのか。 |

| 課題を解決する方法 | |
|---|---|
| **私たち<br>市民** | ➢ 防災マニュアルなどを使って、日頃から災害時に家族が留守の場合は子どもがどこに避難するのかなど、家族で話し合いをしておく。<br>➢ 子どもを連れて避難できる場所を事前に確認する。<br>➢ 極力、必要な物資（粉ミルクやオムツ離乳食のベビーフード）は各家庭で多めに備蓄する。<br>➢ 日用品を、避難しないでも暮らせるように準備しておく。<br>➢ 防災頭巾や防災時使用するリュックを用意しておき、親が留守中でも子どもが避難するときに持っていくよう、家族で話し合っておく。<br>➢ 公設の避難所に行かなくても大丈夫な準備をしておく。<br>➢ 小学生向けに、留守宅での避難方法や保護者が勤務先から子どもの避難先に迎えに行く経路などが分かるような、親子の行動が分かる防災チェックシートを作成する。 |
| **地域** | ➢ 災害時に避難誘導する地域のボランティアの方に目印となるビブス等の着用などに協力してもらい、その方々の指示に従って住民が避難することができるように自治会で話し合いをする。<br>例）木崎小学校では秋に、公園清掃を共同で行い、まちにボランティアのおじさんがいることの認識、帽子及びビブス、腕章をつけている事で子どもたちがわかるようにする<br>➢ 近所の方とコミュニケーションを日頃からとり、万が一親に何かあって子どもを助けられなくても近所の方に助けてもらえる人間関係を作っておく。 |

| | |
|---|---|
| **行政** | ➢ 現在は小学校、中学校、公民館が避難所となっていることが多いが、保育園を未就学児専用の避難所できないか検討する。<br>➢ 緊急時誘導員にビブス又ジャンバー等用意し指導員に渡し、誘導員が誰からもわかるようにする。<br>➢ 保育園や小学校で「親子防災手帳」を配り、防災について意識してもらえるよう親子に働きかける。 |

| 課題（2） | 障がい者や高齢者への対応 |
|---|---|
| 発災前（平常時） | ➢ 要配慮者の情報が地域で共有されていない。 |
| 避難（危機切迫） | ➢ 高齢者の避難をどうしたら良いのか分からない。<br>➢ 高齢者や障がいを持つ人たちに対する、情報伝達方法が心配。<br>➢ 避難時の手助けについて助けを必要としている人と助けるための手段を持っている人をどのようにつなぐのかが分からない。 |
| 発災後（危機発生） | ➢ 要配慮者が避難所で問題なく過ごせるのか心配。 |

| 課題を解決する方法 | |
|---|---|
| **私たち市民** | ➢ 手話が少し出来るように、日頃から自分のスキルを磨いておく。<br>➢ 障がい者や高齢の方の病状の特性など、自分で自分の状況を説明することが難しい人のために個人個人の特性が分かるようなシートを作成し、避難支援をする方が困らないような情報を示しておく。 |
| **地域** | ➢ 災害時の役割について地区ごとに担当を決めておく。<br>➢ 色々な講習会を開いて、介助支援の出来る人を増やす。<br>➢ 高齢者のサポートをできるように事前に準備しておく。<br>➢ 緊急医療情報キットの活用を広げ、災害時に持ち出すように地域でも周知を図る。例）高齢者の方に、普段どういう薬を飲んでいるとか、どこに通院しているかなどを書いた紙を筒に入れて冷蔵庫の中に保管し、救急の際など有事の際にはその筒を確認するもの。 |
| **行政** | ➢ 災害時聴覚障がい者支援の「ヘルプバンダナ」（災害時に身に着けることによって避難所で周囲の人に支援や配慮が必要であることを伝えやすくするもの）の配布を行っているが、聴覚障碍者だけでなく介助が必要な人が広く利用できるように対象を広げるとともに、ヘルプバンダナの情報を市民に広く周知する。<br>➢ 福祉避難所の設置を推進する。 |

【災害時聴覚障がい者支援バンダナ】

| 課題<br>（3） | 外国人への対応 |
|---|---|
| 発災前<br>（平常時） | ➢ 外国人向けの防災情報が HP 上にあっても、その存在が外国人に伝わっていない。<br>➢ 情報が地域内で共有されていない。 |
| 避難<br>（危機切迫） | ➢ 日本人ですら何をしてよいか分からない状況になるのに、外国人は災害時に適切な対応ができるのか心配。<br>➢ 外国人の避難をどうしたら良いのか分からない。 |
| 発災後<br>（危機発生） | ➢ 避難所での外国語対応の問題や国籍や宗教によって食べ物や生活習慣が違う中、外国人住民が日本人と一緒に避難所生活できるのか心配。 |

| 課題を解決する方法 | |
|---|---|
| **私たち<br>市民** | ➢ 日頃から外国人とのコミュニケーションをとって防災についても話をしておく。 |
| **地域** | ➢ 地域としても外国人と積極的に関わっていく。<br>➢ 外国人だけでコミュニティを作りがちな中で、地域で暮らす日本人との繋がりをつくる。<br>➢ 外国人を雇用している事業所は外国人に対して防災についての情報提供を行う。<br>➢ スポレク祭などのイベントを通じて国際交流ができるような場所を作り、地域のイベントの中で外国人に声をかけてコミュニケーションを図っていく。 |
| **行政** | ➢ 様々な言語での情報だけでなく「やさしい日本語」での発信も行う。<br>➢ 様々な言語の防災情報を発信していく。<br>➢ 外国人が良く集るお店にポスターを貼るなどし、情報提供を行う。<br>➢ 外国人にも配慮した避難所の設置を行う。 |

## Ⅲ 「太田市民のための防災マニュアル」を市民の手でもっと使いやすくしよう！

　これまで全4回の議論を重ね、「地震と風水害のリスクと防災の課題」と、「その課題への対応策」を話し合いました。

　議論の中で見えてきた課題は、要配慮者への対応や車での避難、避難所での生活などが分からないといったことや防災マニュアルの情報量が多すぎて分かりづらい、外国人や子ども、高齢者でも分かるやさしい日本語で書かれていると良いというものでした。そうした課題をもとに防災マニュアルを見やすく、分かりやすくするためにどう改善したら良いか話し合いました。

　また、防災マニュアルの存在を知らない市民も多く、自分ごと化会議に参加したことで初めて防災マニュアルを見たという参加者が多くいました。

　防災マニュアルを災害時だけでなく、日頃から活用して広く存在を知ってもらえるようにしたらどうかという声も挙がったことから、防災マニュアルの活用方法について話し合いをした結果、防災マニュアルを自分ごと化するための、「防災自分ごと化シート」を作成したり、防災マニュアルを活用した話し合いや訓練、防災教育を実施したりすれば良いのではないかという提案がありました。

　これらの意見を踏まえた結果、市民のための防災マニュアルを自分たちが活用するための取組の一環として、防災マニュアルの改善と行動変容を促す取組（ナッジ）の視点で検討した活用方法をまとめました。

【ナッジについて】

- ナッジとは英語で「nudge」と書き、「肘でそっとつつく」ことを意味しており、行動科学の知見に基づいて行動変容を後押しする手法です。
- シカゴ大学のリチャード・セイラー教授により「ナッジ理論」が提唱され、2017年にノーベル経済学賞を受賞したことをきっかけに注目が集まるようになりました。
- 『ナッジ』は「対象者の利益・健康・幸福を増進するものでなければならない」と定義されており、相手を想う気持ちを前提とし、強制することなく良い選択へ誘導する理論です。「人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする手法」であり、人間の行動心理を利用して相手に気付かれないうちに選択を誘導することを指します。
- ナッジの構成要素には「EAST」（後述の4つの原則の頭文字を取ったもの）と呼ばれる行動変容を促すための4つの視点のフレームワークがあり、このフレームワークは以下の4原則から成り立っています。

「EAST：ナッジの4原則」

- Easy＝簡単　⇒デフォルト化、労力・手間を減らす、シンプルにする
- Attractive＝魅力的　⇒注意を惹く、ポジティブ・複数のメリット、インセンティブ
- Social＝社会的　⇒社会規範の可視化、情報発信者、社会的なつながりの活用
- Timely＝タイムリー　⇒将来利益の顕在化、タイミング、事前に計画する

このナッジを構成する4つの要素である、EAST を意識して活用すると人の行動を誘導することできます。

例えば、ある自治体では、災害時の避難を促進するために、ナッジの視点を踏まえて、「あなたの避難が、みんなの命を救う。」というメッセージを作成しました。これは他の人の行動に同調するというバイアスを利用したものです。

このように、人間の持つバイアスを利用することで、防災につなげることができます。ナッジで防災行動を促進するヒントは、人間誰しもがバイアスを持っていることを前提に考えることです。そして、「意識」ではなく「行動」に着目して、「誰に、どんな行動を取ってほしいか」、「そのために、どんな仕組みを作って提供することができるか」を考えることです。

今回の会議の中では、こうした視点を持った上で、災害時の行動をどのように促したら良いか意見を話し合い、それらの意見をもとに防災自分ごと化シートの例を作成しました。

## 1 「太田市民のための防災マニュアル」をもっと使いやすくしよう！

| | |
|---|---|
| 目指す姿（1） | 子ども、高齢者が読みやすく、分かりやすい内容にする |
| 目指す姿（2） | 外国人にとって読みやすく、分かりやすい内容にする |

## 2 「太田市民のための防災マニュアル」を活用しよう！

| | |
|---|---|
| 活用方法（1） | 個人・家族での活用方法 |
| 活用方法（2） | 地域・太田市としての活用方法 |

## 3 防災自分ごと化シートを作成しよう！

| | |
|---|---|
| 目指す姿 | 一人一人が災害のリスクを自分ごと化して行動に移す |

## 1 「太田市民のための防災マニュアル」をもっと使いやすくしよう！

| 目指す姿（1） | 子ども、高齢者が読みやすく、分かりやすいものにする |
|---|---|

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 防災マニュアルの情報が多すぎて文字が小さく文字数も多いため、分かりにくい。
- 災害のイラストより写真などリアルなものが載っていると良い。
- 小さい子どものいる人や高齢者など、要配慮者の方が避難する時にはどうしたらいいのかという視点がもっとマニュアルにあると良い。

### 目指す姿(1)に近付くための方法

**防災マニュアルの文字を大きくすることや、フリガナを振ること、文字数を少なくしてイラストや写真で理解できる内容にする。**

**要配慮者が見てすぐにわかるマニュアルに改善することで、実効性も高くなり、防災マニュアルの活用機会を増やすことに繋がるように改善する。**

### 目指す姿(1)に近付くための具体的な方策

| | |
|---|---|
| 文字を読みやすく | ➢ フリガナが振ってあると子どもや外国人にも読みやすくなる。<br>➢ 文字が小さいので、大きくして読みやすくする。 |
| イラストを活用 | ➢ 情報と文字が多すぎるため、イラストで説明して文字を少なくする。<br>➢ 地震発生時の身の守り方は、文章にすると文字が多くなるのでイラストで示す。 |
| 内容の整理 | ➢ 119 番通報の仕方など、各内容について簡単なことは省く。 |
| インデックスの導入 | ➢ 色分けで視認性を上げるのはアトラクティブな観点である。 |
| ミニ防災マップ | ➢ 地域ごとの小さい防災マップがあると、探しやすく簡単に利用できるようになる。 |

| 目指す姿（2） | 外国人にとって読みやすく、分かりやすい内容にする |
|---|---|

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 日本語と翻訳が別冊子だとわかりにくい。
- 翻訳版対応していない外国人にとっても読みやすいようにして欲しい。

## 目指す姿（2）に近付くための方法

**太田市には、多様な国籍を持つ外国人の住民が多く暮らしている。今後、防災マニュアルの翻訳版を作る際は、日本語と外国語を併記することで、日本語しか話せない人と外国語しか話せない人でも、コミュニケーションを取りながら災害時に共に行動することができる。**

**また、市で通常翻訳対象とされていない外国語を母語とする外国人、子どもや高齢者の住民にも分かりやすい「やさしい日本語」を使うことによって、内容の理解を深めることができる。**

## 目指す姿（2）に近付くための具体的な方策

| | |
|---|---|
| 翻訳語の併記 | ➢ 日本語と翻訳を併記できたらよい。 |
| 分かりやすい日本語 | ➢ 優しい日本語で、翻訳版対応していない外国人や子ども、高齢者が読みやすいように言葉を見直した方がよい。<br>➢ 文字が小さいので、大きくして漢字にはフリガナを入れる。<br>➢ 左に外国語、右に日本語を表記した見開きのマニュアルにすれば、外国語が話せない市民もサポートできる。 |

## 2 「太田市民のための防災マニュアル」を活用しよう！

**活用方法（1）** 個人・家族での活用方法

| | |
|---|---|
| 個人で | ➢ 雨の強さと降り方など、体験しないと分からないため、訓練などで実際に体験し危機感を持っておく。<br>➢ 防災マニュアルで重要と思うことや、あてはまる箇所を箇条書きにして災害時に役に立つようにしておく。<br>➢ 災害時には電子機器が使えない可能性があるので、普段の生活の中で防災チェックリストをやっておき、プリントアウトして、災害時に使えるよう準備しておく。 |
| 家族で | ➢ 防災マニュアルを使って、最初に行動することの明確化を図り事前に何を用意すると良いか確認する。<br>➢ 家族で災害について話し合いをして非常持ち出し品の共有をするなど実際に災害への備えをする。<br>➢ 家族間で危険個所の情報を日頃から収集する。<br>➢ 勤務先・通学先で災害が起きた時のために、帰宅方法や避難場所、避難所、避難方法について話し合いをする。<br>➢ 発災前に家族で防災マニュアルを読んで計画を立てておく。<br>➢ 防災マニュアルが知られていないので、知り合いに広める。 |

## 活用方法（2）　地域・太田市としての活用方法

| | |
|---|---|
| 地域で | ➢ 学校と地域の方で共通認識を持ち、それぞれの役割を明確化する。<br>➢ 学校の授業で防災マニュアルを使い、災害時にすべき事の明確化、地域に合った防災教育を行う。また、住所別での避難方法を確認し、避難訓練で体験する。例えば、釜石市においても東日本大震災の際に中学生が小学生の避難をサポートしたという事例があるなど、小さいころから防災意識を持つのは大切である。<br>➢ 実際に過ごす時間は自宅よりも勤務先や通学先だったりする。自分の生活圏で災害が起きたらどうするのか、職場や学校で形だけではない訓練ができると良い。<br>➢ 避難訓練の時に防災マニュアルの中で特に大事な箇所などの読み合わせを行う。<br>➢ 転入者には隣組などで、太田市の防災マニュアルがある事を知らせて、災害が発生した場合の対応を一緒に考える。<br>➢ ニュース等で話題になっているタイミングで（大勢が興味のある時に）、効果的に情報提供をする。 |
| 太田市で | ➢ 防災マニュアルを活用して、防災教育をもっと盛んにする。<br>➢ 防災マニュアルを動画（YouTube など）にして、日頃から誰でも防災について関心が高くなるような仕組みを作る。 |

## 3 防災自分ごと化シートを作成しよう！

**目指す姿**　一人一人が災害のリスクを自分ごと化して行動に移す

防災への備えは情報量も多く、専門性も高いため、市民一人一人が自分に必要な情報を抽出し、具体的に行動できる仕組みとして、「防災自分ごと化シート」を作成することを提案します。

ナビゲーターとして行動科学（ナッジ）の専門家に参加していただいたことによって、参加者が災害発生に備えて日頃から何ができるのか自分達の行動について考えることができました。

会議の中では、災害発生前・災害時・発生後とタイムラインに基づいて、自分や家族の行動を自分ごと化できるような検討・行動のフローチャートが欲しいといった意見が多く出されました。

そこで、防災に対する行動を促進することを目的に、防災自分ごと化シートの作成の考え方を提案するとともに、具体的にイメージしやすいように先進事例を紹介します。

シートが活用されることで、災害への危機感が低く、距離感がある市民の意識が変わり、どのような行動が防災・減災に繋がるかを理解して行動に移すようになることを目指します。

【防災自分ごと化シート作成の考え方】

（1）災害リスクの自分ごと化【ステップ 1】

① 災害リスクは、市民一人一人異なるため、まずは自宅の災害リスクを防災マップで確認します。

（ア）風水害

- 土砂災害警戒区域か？
- 浸水想定区域か？

（イ）地震

- 建物の耐震基準は？1981 年建築基準法改正前の建物か？
- 木造住宅密集地域など地域防災計画等で指定されている災害リスクの高い地域か？

② 次に、自分が普段生活する場所（学校、職場）や良く利用する場所の災害リスクを防災マップで確認します。

（2）避難行動の自分ごと化【ステップ 2】

① 風水害

- （1）で確認した災害リスクを基に避難行動に移るタイミングを確認します。
  （例）〇〇地区で浸水被害を想定した避難指示が出たとき
- （1）で確認したタイミングに対して、高齢者や障がい者など避難行動に制限がある方は、（1）よりも早めに避難します。
  （例）高齢者等避難開始が出たとき、又は既に避難所が開設され昼間や降雨量が少ない状況で早めに避難します。

- 避難ルートを確認します。

（例）川や水路の近くを通らないで行けるルートを設定します。

② 地震

- 耐震基準前の住宅の場合、大地震が発生して、家屋が倒壊しなかった場合でも、その後の余震で倒壊する恐れがあるので、避難場所又は避難所へ避難します。

（例）大地震が発生したとき、避難所開設まで時間を要するので、まずは避難場所へ避難し、身の安全を守ります。

- 避難ルートを確認します。

（例）道路が狭く、住宅が密集していないか。危険なブロック塀はないかなど。

（3）防災に対する準備の自分ごと化【ステップ 3】

① 風水害

- （1）で確認した災害リスクがある方は、市が設置予定の避難場所、その他親せきの家など避難できる場所を確認します。
- 防災マニュアル等を確認して、避難に必要な物を準備する。そのほか、病気など個人の状況を踏まえて、必要な物をリスト化しておきます。

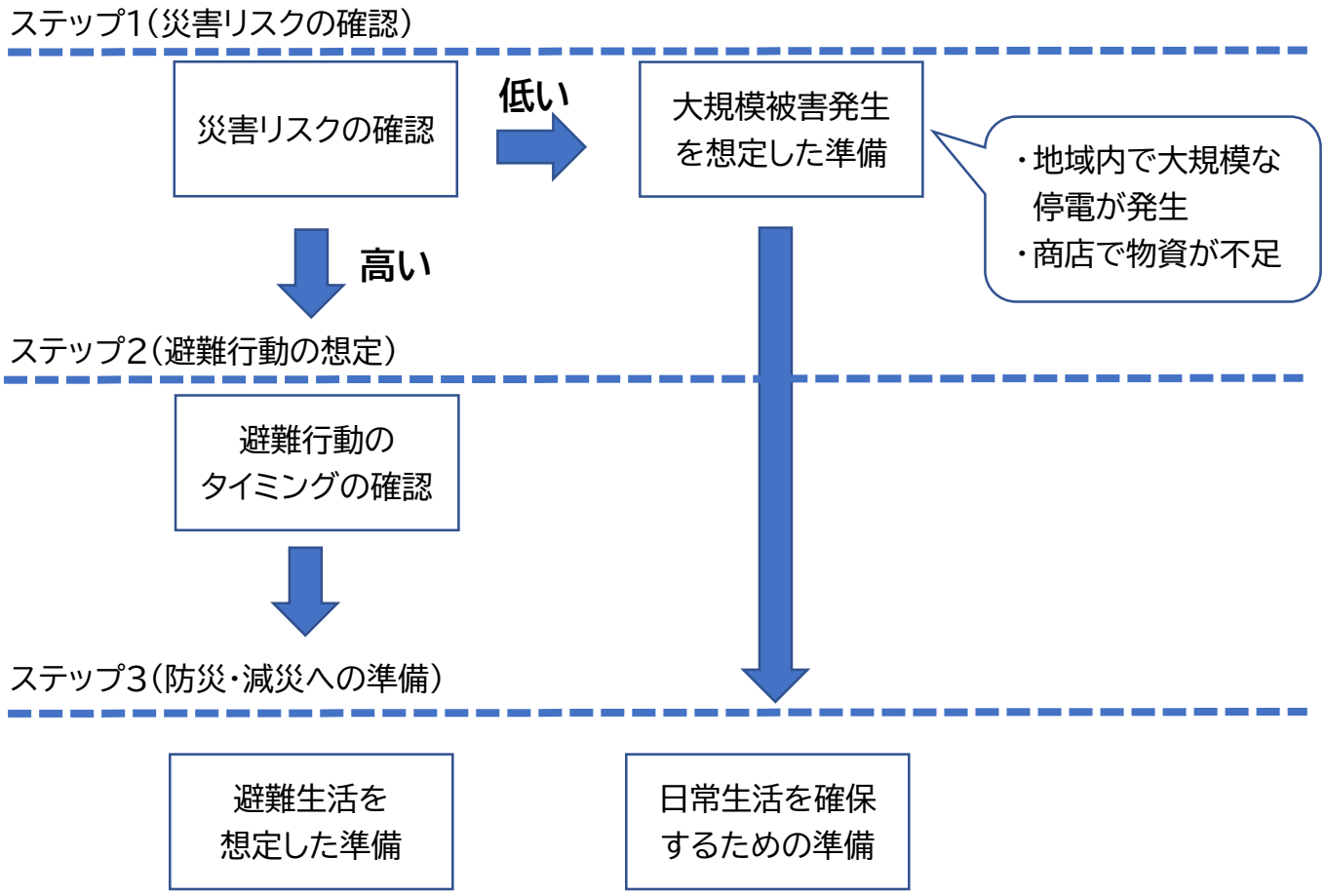
② 地震

- 耐震基準前の自宅は、市の補助金を活用して耐震補強工事を行うか家族で話し合う。耐震補強工事を行わない場合は、耐震ブレーカーの設置や、寝室の家具を固定するなど出来る範囲の準備を行います。
- 危険なブロック塀と判断されたときは、市の補助金を活用して撤去することなども検討します。

【防災自分ごと化シート設計の考え方】

本シートは災害発生時のリスクからバックキャスティングの視点で作成することで、より現実的な行動や準備が出来るよう下記のフローに基づき設計することを提案します。

（風水害編）




【先進事例の紹介】

（1）風水害用の防災自分ごと化シートの例（燕市）

前頁の提案内容をイメージしやすくするため、新潟県燕市の事例を紹介します。参考となる点は、チェックリストが書き込めるようになっていて、災害リスクを自分ごと化しやすくなっている点です。ここに、高齢者や障がい者、外国人、妊産婦、子どもがいる場合など、それぞれの配慮すべき事項も書き込めると今回の提案書の内容が更に活かされると考えます。

もう一つは、フローチャートで示している点です。このことによって、具体的に対応方法を考え、行動することが出来ます。さらに、防災マップや防災マニュアルのどこの箇所を見れば分かるか、参考情報を示すことで既存の資料を有効に活用できます。

# 1 「避難方法・避難行動」のチェック！

「ハザードマップ」「マイ・タイムライン」を見ながらチェック！

## Ｑ１．「避難行動」のチェック！

**当てはまるもの（☑）にチェックしましょう。**
**（すべての項目にチェックできるようにしましょう。）**

１.☑ 風水害（台風・大雨）が発生した時の避難先を決めている。
（避難先の場所：　　）

２.☑ 避難先は、ハザードマップの浸水想定では、安全な場所にある。
（浸水深：　　ｍ）　※ ハザードマップで浸水深を確認
☞ ☑（浸水する場合）浸水深が３ｍ以下で、２階以上に避難するため安全である。

３.☑ 避難先は、感染症対策を考えた適切な避難場所である。
☞ ３ページの避難行動判定フローチャートで確認しましょう。

４.☑ 予備の避難先を考えている。（予備の避難先：　　）

５.☑ 風水害時に、避難するタイミングを決めている。
☑ 警戒レベル３（高齢者等避難）　☑ 警戒レベル４（避難指示）　☑ その他（　　）
☞ ３ページの避難行動判定フローチャートで適切か確認しましょう。

６.☑ 防災つばめ～ルを登録している。
☞ 登録していない場合は、下の登録方法から登録しましょう。

７.☑ 風水害が発生する恐れのある時（発生した時）、自らテレビやインターネットで積極的に情報を収集している。

---

☑ 「マイ・タイムライン」を記入している。
☞ 記入していない場合は、今すぐ記入しましょう！

**ポイント！**

**風水害時は、自ら気象情報などを収集することが重要です。**

テレビやラジオ、インターネットで積極的に情報を収集しましょう。
市の防災情報は、防災行政無線や防災つばめ～ルなどで収集できます。

**【防災つばめ～ル 登録方法】**

下のアドレスか、右のＱＲコードを読み込み、空メールを送信します。その後、返信されたメールに従い登録してください。

**アドレス**　insert-mail@city-tsubame.jp

2

ポイント！

## 避難行動判定フローチャート

**Ｑ１で回答した内容（「避難先」「避難するタイミング」）が適切か、フローチャートで確認しましょう。**

**スタート**

ハザードマップで自宅周辺の場所は色がついていますか？（白色以外）

- いいえ → **風水害による避難の必要はありません**
  ただし「土砂災害警戒区域」にある場合は、市からの避難情報を確認して避難しましょう。
- はい ↓

浸水の深さは、0.5m未満（黄色）又は0.5～3m（橙色）ですか？

- 0.5m未満又は0.5～3m はい → **自宅の２階に避難しましょう（在宅避難）**
  **警戒レベル４ 発令で２階への避難を完了**
  自宅の高い場所で安全確保できます。ただし「家屋倒壊等氾濫想定区域」にある場合は、避難情報が発令されたら自宅以外の場所へ避難しましょう。
- いいえ（いいえ ３m以上です）↓

※「土砂災害警戒区域」「家屋倒壊等氾濫想定区域」はハザードマップで確認！

ご自身・家族で避難に時間がかかる人はいますか？

- はい ↓
- いいえ ↓

ハザードマップで安全な場所か確認！

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

- はい → **警戒レベル３** 高齢者等避難 が発令されたら、**安全な親戚や知人宅へ避難**
- いいえ → **警戒レベル３** 高齢者等避難 が発令されたら、**市の指定避難所などへ避難**

ハザードマップで安全な場所か確認！

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

- はい → **警戒レベル４** 避難指示 が発令されたら、**安全な親戚や知人宅へ避難**
- いいえ → **警戒レベル４** 避難指示 が発令されたら、**市の指定避難所などへ避難**

3

# Ⅳ　自分ごと化会議に参加して、変化したこと

　アンケートを通じて、各委員が自分ごと化会議に参加して防災に対する意識が変わったことや気付きをまとめました。

## 1　自分ごと化会議に参加して、変わったこと（アンケート結果から抜粋）

- 危なさそうなところを見るようになった。（20 代　男性）
- 地域コミュニケーションを図ることが多くなった。（60 代　男性）
- 水やパックのごはんを準備するようになった。（30 代　男性）
- 防災には問題が非常に多い。対策の優先順位は弱者から。子ども対策もしなければと感じるようになった。（70 代　男性）
- ナッジに興味を持ちました。（30 代　女性）
- 街中の建物や道路など目が向くようになってきた。自分の家の中や外など、“もしも災害が起きたら”を考えるきっかけになった。（50 代　女性）
- 物の見方が変わった（50 代　女性）
- 会議に参加することで関心は高まっていたが、トルコの地震でもっと考えるようになった。（40 代　女性）

## 2　会議全体を通じた感想やコメント（アンケート結果から抜粋）

- 最後の会議で参加人数が少なくなってきて少し寂しいと思いました。コーディネーターの高澤さんのおかげで楽しく勉強できました！ありがとうございました。（50代　女性）
- コーディネーターの高澤さんのトーク、何か質問があった時の危機管理室の誠実さに感動しました。（30 代　女性）
- なかなか意識して考えることのなかった防災について身近に考え、「もしも…」「いざ…」という時に行動がとれるように日頃から考え行動していきたいと思いました。（50代　女性）
- 人前で話すことが好きではなかったが、今回の会議を通じて少しずつだが話すようになった。人の意見を聞くようになった。（世間が少し広くなった。）外国の方との接し方を考えさせられた。（60代　男性）

## 3　今日からの防災自分ごと化宣言

私たちの地域の防災力を高めるために、私たちが今から取り組むこと

防災グッズを色々と調べる。
【阿久田　司】

自分の身は自分で守る。自分が助かったら、他人を助ける。
【横山　亮太】

ブルーシートを留めるロープを買う。
【梶原　拓也】

防災グッズを少しずつそろえる。防災について日常の中でも話し合える仲間を増やす。
【萩原　佳代】

多文化共生推進士として、いろいろなコミュニティを巻き込んで地域で防災に関するイベントを開催する。
【坂本　裕美】

地域の活動に積極的に参加し、自分のできること（少しの手話など）を知ってもらい、困りごとのある人を知る。
【青木　千代子】

防災メールの登録をしたい。防災グッズの中身をチェックして不足分を買い足す。
【遠藤　弘之】

地域コミュニティの共同作業をする。
【関沼　三郎】

防災グッズの準備を家族と共有してから買い足す。
【川田　碧】

防災について、いつか身近に起きることと捉えながら日常的に意識して備蓄をするなど行動をする。
【西村　美弥子】

できるだけ自分が持っている情報を子どもや知人に伝える。
【Silvia Rosane Colodeti Yokota】

職場の方や身の回りの人などに対して、今回学び得た事を伝えていく。
【髙畑　鉄男】

## ～おわりに～

私たちは、当初は災害を他人事のように捉えていましたが、自分ごと化会議に参加し対話を重ねることで、一人一人が防災について考え、具体的な行動を始めました。まずは自分から、そして家族、地域へと活動を広げていきたいと思います。

このような思いに至ったのは、対話の中で気付きを得たことが大きな要因と考えます。防災マップが各家庭に配られましたが、さっと目を通して家の片隅に置いたままでした。テレビのニュースで日本や世界各地で発生している災害を見ても、どこか他人事だったように思います。自分ごと化会議で私たちの街のことを様々な立場の人たちと話し合うことで、少しずつ意識が変わってきました。「なぜ災害に備える必要があるんだろう」「もし、今、災害が発生したら自分は、家族は大丈夫だろうか」と話し合うことで、具体的に想像出来るようになりました。

また、危機管理室の職員の皆さんが、私たちの疑問に丁寧に答えていただき、これまで市役所は手続きをする所ぐらいにしか考えていませんでしたが、身近に感じるようになりました。

しかしながら、今回参加した委員全員、自分ごと化会議のことを知りませんでした。きっと、ほとんどの太田市民が知らないのではないでしょうか。このような対話の場が増えれば、私たちの街はもっと良くなると思います。

全４回の会議で次のような意見（感想）が委員から出ました。今後の自分ごと化会議の参考になれば幸いです。

- アンケートの委員の声を参考に、若い人が発言しやすいように少人数のグループに分かれて意見交換をしました。これによってチームで話し合いを進めることができました。
- 国外出身の方もメンバーに加わったことで、外国人コミュニティでの防災情報の共有における課題や、災害時にどうやって意思疎通を図りながら避難所で生活したらよいかといった具体的な議論ができました。
- 自分ごと化会議 OBOG も会議に参加しました。OBOG が議論をリードする立場になる場面もあり、委員の考えていることや意見を引き出しながら参加者一人一人が防災の自分ごと化を進めることができました。
- 会議をきっかけに委員自ら実際に自分なりの避難時の行動計画を作ったり、防災グッズをホームセンターや 100 円ショップなどでコストを抑えて必要なものを準備したりするなど、計画から準備までまとめて自分ごと化することができました。

自分ごと化会議

私に関係ある？ ある！